

都民ファーストの会 東京都議団 東京都議会議員(杉並区選出)

あかねがくぼ かよ子

現役世代が
いきいきと輝く東京に

PROFILE

都議会議員。都民ファーストの会
東京都議団 女性活躍推進本部長。文教委員会、

私立学校助成審議会、国保運営協議会、男女平等参画審議会所属。1975年生まれ。

杉並区浜田山在住。東京大学卒業後、ベンチャー、大手IT企業でビジネス(事業戦略、業務改革、

マーケティング)に従事。自身の経験を活かして、ワークライフバランス、適職発見、働き方改革を支援する活動にも尽力。

01 持続可能な医療を考える

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、一般の疾病での診療は、極力通院することなく、診察や薬の処方をしてもらいたいと考えました。そこで、**遠隔医療**について本会議の一般質問で取り上げましたので一部をご紹介します。



Q

(あかねがくぼの質問)

院内感染や医療崩壊を防ぐ上で一定の効果が期待できる**遠隔医療の推進**について、医師会や病院協会とも連携を取りながら、協議を始めるべきと考えるが、見解を伺う。

A

(福祉保健局長の答弁)

- 都は国に対し、**オンライン診療**が可能となるよう、速やかに検討することを緊急要望。
- 今後、国が定めた基本方針も踏まえ、**医師会等とも連携し**、感染防止の観点から、医療機関を受診しなくてもよい体制づくりに取り組んでいく。

遠隔医療で今後膨れ上がる医療費にブレーキがかけられるか?

遠隔医療とは情報通信機器を活用した健康増進、医療に関する行為のことで、主に以下2つのパターンがあります。

医師 対 医師 (DtoD) 主治医が専門医と連携して診察を行う

医師 対 患者 (DtoP) オンラインで診療等を行う

平成30年度診療報酬改定

「オンライン診察料」が創設

在宅療養中や生活習慣病の再診など、**オンライン診療が可能に。**

遠隔医療は長らく医療資源の乏しい地域にだけ必要と考えられてきましたが、感染症流行時や災害発生直後などの有事の際には、都心でも必要不可欠な社会的インフラです。また、多忙で病院に行くことができない働

く世代にとっても有用です。

医療研究としては、**アップルウォッチ**などのウェアラブル端末を使って血圧や心拍数などの生体情報を取得し、症状や薬の効果などを分析するといった取組が、日系企業や大学で始まっています。

超高齢社会において、医療費の抑制は重要課題ですが、デジタル技術を使い**「健康の自己管理⇒予防医療⇒医療費抑制」**という好循環が生まれます。健康管理と遠隔医療の体制を一体的に実現することで、真意を発揮します。遠隔医療(特に医師对患者)を都内に広く普及させるには様々な課題を解決する必要がありますが、持続可能な医療体制に向けて推進してまいります。

